

ヒポクラテス

星 和 夫

新潟大学附属図書館

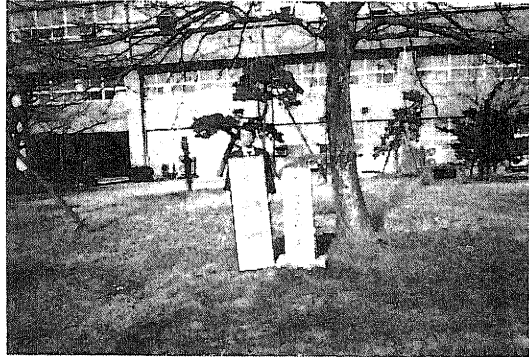
医聖ヒポクラテスのことは医学研究者なら誰でも知っているほど有名であるが「ヒポクラテスの木」についてはどうであろうか。

当大学医学部にその木がある。この木の由来は、ヒポクラテスが生まれたギリシアのコス島の町の中央広場にとても古くから繁っているスズカケノキがあり、この木の下でヒポクラテスが弟子たちを教えたという伝説があつて、この木を「ヒポクラテスの木」と呼んだといわれている。

昭和44年コス島からヒポクラテスの木の種子を持ち帰ったのは当時新潟がんセンター蒲原宏博士であり、それが今医学部に育っているのである。

日本にはこのほかに山形市篠田秀男博士、東京都緒方富雄博士等がこの由緒ある血統づきの種子を持ち帰り日本で育てた。

なお、ヒポクラテスの木といってもこの木は明治以来日本に渡来しており、今では公園や家庭や街路にたくさん繁っているスズカケの木である。



当大学医学部の教授であつた中田端穂博士は芸術家である。ギリシア、コス島博物館の大理石立像をもとにして画した「ヒポクラテスの像」や「学問の静かに雪の降るは好き」と書かれた色紙が当分館にある。もちろん医学部のヒポクラテスの木の傍らに建っている石碑の文字も博士の揮毫である。

医学図書館に来て体験した心の眩き

高井 真利子

新潟大学附属図書館旭町分館

まず最初にお断りしておきますが、ここに書いてあることは私の個人的な感想であり深い意味はなく、軽い気持ちでお読みいただきたい。

私の普段の仕事は図書の目録整理であるが、総

合図書館では体験しなかつた心の中の眩き（天使と悪魔の如く対照的な声）をときどき聞くことがある。沢山の本の山を前に、図書の目録作成のため本を手を持ちざっと目を通して見ると、そのと